消化器系疾患

犬の腸リンパ管拡張症

犬のタンパク質喪失性腸症の原因の 1 つである腸管リンパ管拡張症（IL）の特徴として、腸リンパ管の拡張と腸管へのリンパ液の漏出があげられます。

リンパ管拡張症は、遺伝性のもの（一次性 IL）と後天性のもの（二次性 Il）があり、犬では二次性 IL がより一般的に報告されています。

タンパク質、脂肪、リンパ球を多く含むリンパ液が腸管に漏れ出すことが、体重減少や慢性下痢などの臨床症状の原因となっているのが典型的です。また、嘔吐や食欲不振もよく見られる症状です。下痢は持続する場合と断続的に続く場合があります。全く現れない場合もあります。単独または炎症と合併してリンパ管が拡張すると、栄養の分解が不完全となり吸収障害を引き起こします。栄養失調は、好発する生命を脅かす可能性のある合併症と考えられています。

キーメッセージ

- 腸リンパ管拡張症の犬の管理には、十分なカロリーとタンパク質を供給できる栄養バランスのとれた、消化の良い超低脂肪食または低脂肪食を与えることが重要です。食事性脂肪の摂取を制限すると、腸のリンパの流れが低減し、乳び管膨張が減少し、タンパク質の損失が最小限に抑えられます。
  - 低脂肪食は低カロリーです。体重減少が重度の犬には、炭素数 8 と炭素数 10 の中鎖脂肪酸を含む食事を選択することで、リンパ液のうっ滞を起こしにくい代替エネルギー源とすることができます。
- 食事は、消耗した血清および組織タンパク質を補うために、消化が良い高品質のタンパク質を十分に含む必要があります。
  - リンパ管拡張症と慢性腸症を併発しているペットには、低脂肪であれば、加水分解タンパク質またはアミノ酸ベースの食事（成分栄養食）が適切な場合があります。

（次のページに続く）

キーメッセージ（続き）

- リンパ管拡張症の犬には、消化管の膨張やうっ血、場合によっては下痢や嘔吐を抑えるために、1 日に 3〜4 回、少量の食事を与える必要があります。
- 小腸性下痢を呈するリンパ管拡張症の犬には、不溶性食物繊維を減らした食事を与える必要があります。不溶性食物繊維は消化率を低減させ、タンパク質と炭水化物の吸収が損なわれるリスクが高まる可能性があるためです。
- プレバイオティクス繊維（水溶性または混合繊維など）を食事に取り入れると、細菌叢により短鎖脂肪酸の産生が促進され、効果がある場合があります。微生物叢.

追加のリソース

Davenport, D. J., Jergens, A. E., & Remillard, R. L. (2010). Protein-losing enteropathies. In M. S. Hand, C. D. Thatcher, R. L. Remillard, P. Roudebush, & B. J. Novotny (Eds.), *Small animal clinical nutrition* (5th ed., pp. 1077–1083). Mark Morris Institute.

Gaschen, F. P., & Laflamme, D. (2010). Chronic enteropathies–canine. In *Nestlé Purina PetCare handbook of canine and feline clinical nutrition* (pp. 62–63). Nestlé Purina PetCare Company.

Zoran, D. L. (2010). Lymphangiectasia–canine. In *Nestlé Purina PetCare handbook of canine and feline clinical nutrition* (pp. 66–67). Nestlé Purina PetCare Company.

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。

PURINA Institute
Advancing Science for Pet Health